

奥能登原木しいたけ 「のとてまり」・「のと115」だより

令和3年度第1号
(通巻22号)
令和3年6月9日発行

<発行者> 奥能登原木しいたけ活性化協議会、石川県農林総合研究センター

梅雨へ向けた原木管理について

今年は5月上旬まで雨が少なく、活着やその後の成長が心配されましたが、5月中旬からまとまった雨が降り、ひと安心といったところです。ですが、冬の収穫のためには、梅雨前後のほだ場管理を適切に行って、夏を乗りきることが重要です。

◇ 本伏せを行いましょ

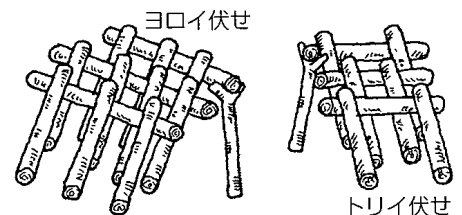
- **高温多湿は厳禁**です
- 気象台の長期予報では、今年は気温が高めで降水量が平年並となっています。
- 今、形成菌の状態が良くても、ほだ木の水分が抜けないとシイタケ菌が全体にまわりません。
- 伏せ込み場の周囲の除伐、草刈り、水はけの状態を確認しましょう。



庇の張り出しを充分にとり、西日が当たらないようにします



張り出しがないと、横から直射日光があたり、雑菌が発生します



傾斜地では、ヨロイ伏せやトリイ伏せにし、全体に雨があたり、かつ通風を良くします

※ 同じ伏せ込み場所でも微妙に環境が異なります。地面に近い方、遠い方、山側、谷側など、条件が異なる複数のほだ木を確認し、まんべんなく良いほだ木になるよう目を配りましょう。

- 今年は雨の日と晴れの日が極端な気象です。本伏せは、菌の状態、ホダ木の状態をみて、早めに行いましょう
- 伏せ込み場所やほだ場の整備も今のうちから少しずつ行っていくことで、害虫の発生や被害を抑えることができます。

形成菌の1年ほだは植孔発生です。植孔の菌を大事することで今シーズンの収穫量が決まります。良いほだ木を作ってしっかりと収穫しましょう。